

平成26年度七尾市食育推進委員会（第1回）会議録

日時	平成26年8月7日（木） 午後1時30分～3時
場所	七尾サンライフプラザ 第24会議室
出席者	伊藤 美英子、海老 恵子、澤 祐紀恵、白井 洋子、杉森 千亜紀 高瀬 喜美枝、柄本 みのり、平野 一郎、松本 眞壽子、北谷 俊一 (事務局)竹森 誠一、高沢 美和子、松柳 佳代子、前田 和栄 (委員10名、事務局4名) (欠席) 田村 里花、永島 志寿江、松田 武
内容	<p>○開会（竹森課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度第1回七尾市食育推進委員会を開会する。 ※年度が改まり、各所属組織からの委員の変更を紹介する。 ・七尾市小中学校長会より津田校長に代わり、澤校長、栄養教諭・学校栄養職員研究会三宅委員に代わり、杉森委員、七尾市PTA連合会北山委員に代わり永島委員である。本日欠席は、PTA連合会の永島委員、市民代表の松田委員、学識経験者 鵬学園高校の田村委員である。職員は健康福祉部長岡野に代わり北谷部長となった。 ・開会あいさつについては、本来、委員長あいさつとなるが、委員長空席のため七尾市健康福祉部長北谷より挨拶する。 <p>I 開会あいさつ（北谷部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様方には、日頃より市政とりわけ健康推進行政にご理解・ご協力いただいていることに謝辞。食は、生きていく上で欠かすことのできない命の源である。食育は生産者等への感謝の心の醸成や心身ともに健やかで心豊かな人間形成を目指すことを目的としている。近年はライフスタイルの多様化などにより食習慣の乱れ、栄養の偏りによる肥満や生活習慣病の増加など課題も多い。平成22年3月に策定された「七尾市食育推進計画」が今年度で計画の推進が完了する。皆様方には、来年度からの「第2次七尾市食育推進計画」の策定についてご意見いただきたい。「第2次計画」には生活弱者にも配慮し、子どもから高齢者まで生涯にわたる全ライフステージでの食育推進、生活習慣病予防・重症化予防につなげる推進や家庭における共食の推進を重点課題として取り組んでいく。周知から実践を目指していくので、お示しした資料に基づき審議していただきたい。忌憚のないご意見をお願いしたい。 <p>○事務局職員紹介と配布資料の確認（竹森課長）</p> <p>II 七尾市食育推進委員会委員長の選任について（竹森課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の互選により定める（委員会設置要綱より）とある。

- ・委員より「事務局一任」の声が上がる。
- ・事務局としては、前任の津田校長と同組織の七尾市小中学校長会の澤 祐紀恵委員が委員長にと考えている。
- ・拍手で承認

○澤 委員長あいさつ

- ・食育は学校でもたいへん力を入れている。子どもたちの健康面だけではなく、子どもたちが今後、未来を拓いていくということからも学校では年間指導計画に基づき活動している。七尾市では「食育推進計画」の中で子どもから大人まで幅広く実践しているとのことである。今後も実りある会にしていきたいと考えているので、ご協力いただきたい。

Ⅲ 報告・協議事項（事務局：高沢）

1 「七尾市食育推進計画」について

(1) 「七尾市食育推進計画」取り組み年次計画について

資料1 年次計画

- ・5年間ということで、一覧化してある。主なことのみ報告する。
基本的施策<1 食と健康に関する知識の普及>、<2 食を通した心の育成>、<3 郷土料理や行事食の継承>、<4 地場産物の普及>は昨年度と変わりなく推進されている。主な変更点は、<5 食育推進体制の整備>である。「七尾版食育カルタ」の作成が変更となり「食育カレンダー」を作成した。後程、前田から説明する。「食育名人の発掘および情報の発信」については、平成25年度に食育名人の定義を課内のワーキンググループで検討したところ、何を基準とすべきか。定義化することが難しいなどの課題も多くあり、食育名人を市民に情報発信をすることは行わないこととなった。

(2) 「七尾市食育推進計画」目標値について

資料2 計画の目標値

- ・訂正について、「朝食を食べない市民を減らす」について、3歳児の平成25年度「朝食を食べない」は、0.52%ではなく1.0%に訂正をお願いする。
- ・では、平成25年度の目標値について報告する。
平成25年度の「朝食を食べない市民を減らす（目標0%）」は、4,5歳児2.2%、小学生1.4%、中学生は3.7%であった。まだ朝食を食べない子どもたちが数パーセントであるがおり、朝食の大切さや脳への影響等、保育園、幼稚園、学校、PTA等と連携し目標値0%に近づくようにしていきたい。
- ・「夜10時までには寝る子どもを増やす（目標1歳6か月児80.0%以上、3歳児70%

以上、4,5歳児 70%以上、小学生 70%以上)」は、乳幼児健診で生活リズムの大切さ等の教育や保育園等と連携して推進した結果、1歳6か月児では目標である80%に達し84.0%となった。

- ・「食事のあいさつをする市民を増やす（目標値 100%）」は、90%以上の家庭で実施している。目標値 100%にするには難しい面もあるが到達するよう連携して働きかけたい。
- ・「家族と一緒に週に1回以上料理する子どもを増やす（目標 100%）」は週1回以上と言う目標が高く23.9%で目標50%には達していない。
- ・「家庭で行事食や伝承料理を作る市民をふやす(目標値 4.5歳児 50%以上、小学生 70%以上)」は、達している。
- ・学校給食での「地場産物に触れる機会をふやす（目標値 30%以上）」は杉森栄養教諭らの働きかけで努力しているが、生鮮物であるので適時に食品がないという課題もあり、目標に到達していない。
- ・「食育を実践している市民を増やす（目標値 90%以上）」は、「食育」がまだ浸透しておらず、約5割である。
- ・「地域に根ざした食育活動を増やす」は食育サポーターによる食育教室は平成25年度0回となっているが、地区の食生活改善推進員がこの部分を担って実践してくれているので了承いただきたい。

(澤委員長)

- ・以上、ここまでの説明で質問・意見等いただきたい。

(海老委員：石川県漁業協同組合ななか支所)

- ・目標数値の項目の中にあつた「地場産物に触れる機会をふやす」のことで、自分の畑で今年金糸瓜をたくさん収穫した。これを学校給食で使ってもらうことはできないか。生産者の立場として、今後情報共有しながら使えるものを使ってもらいたい。

(杉森委員：七尾市栄養教諭・学校栄養職員研究会)

- ・地場産物の使用については計画をたてて使うようにしている。平成25年度、金糸瓜は不作でほとんど入手できなかった。ここ数年の天候不順で献立に入れて計画していても食材がないという現状にあり、献立作成側としても困っている。給食献立では金糸瓜は酢の物、サラダ、スープなどに使用している。あれば地場産物使いたいので、どの方がどのくらい持っているのか教えてほしい。JAを通じて注文はしているが、情報提供いただければありがたい。

(高瀬委員：JA能登わかば農業協同組合)

- ・生産・流通に関しては直売所の大野店長の方が詳しく説明できると思うが、JAとしても学校給食への食材提供は協力させてもらっている。ただ、「ねねの会」だけで

は、市内の学校給食用を全部となると厳しいと思う。収穫量やできばえの問題など生産者の立場も十分理解できるが、「できたから使ってください」ということでは難しいのではないか。自分は分野違いで説明不足で申し訳ない。

(澤委員長)

- ・子どもにとっては、家では食べなくても給食に出れば食べることができるし、喜んでいいる。難しい問題もあるが今後とも地場産物を給食に取り入れていってほしい。

(白井委員：七尾商工会議所女性会)

- ・「家庭で行事食・伝承料理を作る機会を増やす」とあるが、地場産物の紹介やこの時期にこのような行事食を作ったなど、もっと広く広報等でPRすればよいのではないか。ミナクルの親子ふれあいランドで郷土料理・伝承料理のレシピを作っている。もっと若い方に知ってもらうように働きかければどうか。

(事務局：高沢)

- ・健康推進課で難しいと思うが、学校でも献立に入れたるなど工夫しているので、広報に依頼し、給食で郷土料理の給食日に取材し、写真や作り方などを紹介することは可能かと思う。広報にこのことをお願いしてみる。

(伊藤委員：七尾市女性団体協議会)

- ・伝承料理は市民大学講座で行っている。広報見ていただくとわかると思う。里山里海振興課でも「でかやまごっつお」など料理教室等行い普及している。

(事務局：高沢)

- ・広報広聴課に情報提供し、郷土料理の写真や作り方を載せる等について健康推進課の方で連携調整していく。

- ・次に昨年度、作成した「食育カレンダー」について前田の方から紹介・説明する。

(事務局：前田)

- ・資料1：年次計画の「食育推進体制の整備」になるが、昨年度、課内の食育ワーキンググループで検討させていただき、(実物見せる)、食育カレンダーではなく、食育ポスターを作成した。子どもの食の実態調査や食の課題・問題点など伝えたいことを絞り、食育メッセージとして載せた。対象は保育園・幼稚園の園児および保護者ということで、園の玄関先や給食のサンプルケース付近に掲げていただき、親子で楽しめるように鮮やかに仕上げた。イラストは市内在住の一般の方に描いていただき、たいへんよいできばえになった。保育園・幼稚園では活用していただいていると思う。竹森課長からの「小学校にも配布すれば」と言う提案を受け、2学期からになるが小学校に配布し、ランチルーム等に掲げていただければと考えている。その際は澤委員長、ご協力賜りたい。

2 「第2次七尾市食育推進計画」について（高沢）

- ・部長挨拶にもあったように、平成26年度に「第2次七尾市食育推進計画」を策定する。そこで、委員の皆様にご理解をいただきたく、説明をさせていただきます。

(1) 食育基本法（前文）

資料2 食育基本法（前文）

要約：「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身につけることによって、心身の健康を増進する健全な食生活をする。つまり、食の選択力をつけ、健康増進につなげることである。

(2) 「第2次食育推進基本計画（抜粋）」国計画

資料4 第2次食育推進基本計画国（抜粋）

- ・第1次にはなかった重点課題が新たに加わった。
 - 1.生涯にわたるライフステージに応じた間断のない食育の推進、
 - 2.生活習慣病予防および改善につながる食育の推進、
 - 3.家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進を第2次計画に盛り込むように国の方から示されている。

(3) 「食育推進基本計画」第1次と第2次の違い

資料5 国の食育推進計画が1次と2次の違い

- ・基本方針は変わらない。
- ・周知から実践へということで、先ほどの重点課題3項目が掲げられている。
- ・生活習慣の改善が重要な課題であり、その中でも食生活の改善は、極めて重要であることから、生活習慣病の予防及び改善につながる食育について、国はもとより、地方公共団体が連携して推進する。とあるように、生活習慣病予防の食生活の改善につながる食育を特に重点的に取り組むこととして示された。

(4) 計画策定の趣旨と背景について（案）

- ・資料6の前に、資料7の当市の現状と課題、そこから見えた第2次食育推進計画の方向性を説明させていただきます。

資料7 課題の整理と課題から見えた「第2次七尾市食育推進計画」の方向性（案）

- ・七尾市の現況、少子高齢化（資料説明）、一世帯当りの人員減、4世帯に1世帯が高齢者世帯等
- ・平成25年度実施した4,5歳児対象の「子どもの食の実態把握調査」「小中学生生活習慣アンケート」結果から、子どもの課題として、朝食がパン、ご飯等の主食のみ等が16%前後であった。朝食欠食だけでなく、食事内容に偏りがある。
- ・平成25年度市国保特定健診結果から、成人の課題として、腹囲が基準値を超えているのは34.2%、約3人に1人、男性は52.1%、血糖値（HbA1c）有所見は64.4%

で約3人に2人、LDLコレステロール有所見46.1%で約2人に1人、血圧有所見（収縮期血圧）44.1%で約2人に1人。肥満や高血圧、脂質異常、高血糖等の重複により動脈硬化が進む。

- ・平成25年度の要介護認定者の原因疾患、主治医意見書よりでは、脳血管疾患17.8%、認知症29.2%、40歳～64歳の2号被保険者の方の介護認定の原因疾患では、脳血管疾患が2人に1人以上であった。
- ・以上の課題を解決するために「第2次七尾市食育推進計画」は、各ライフステージに応じた課題を改善する取り組みを関係機関と連携して取り組む・「自分の健康は自分で守る」意識を高めることが重要と考えている。

資料8 「第2次七尾市食育推進計画」ライフステージ別食育目標と食育推進体制イメージ（案）について

- ・先ほどの課題を解決するために、第2次計画の目標は「心身の健康の保持増進」「豊かな心の醸成」「伝統・伝承、七尾の地場産物の理解」としたい。
- ・また、資料8の下は、食育推進体制についてである。地域、保育園・幼稚園、学校、商工会、JA、漁協等関係団体、行政が各団体の特色ある食育を行い、市民を支援するというイメージ（案）である。
- ・目標については、資料4をあわせて見ていただきたい。

資料4 右側の国の目標は、「食育に関心を持っている国民の割合の増加」「栄養バランスを配慮した食生活を送る国民の割合の増加」など、目標内容が抽象的である。自分は、バランスよく食べているつもりでは、本当は、偏っている等、個々に思いが異なる。

部課長で組織する「食育推進計画連絡会議」においても客観性のある目標をと言う意見があり、資料8で示したように「第2次七尾市計画」では「適正体重を維持している人の増加」など具体的に評価できる内容とした。県や国と比較するのではなく、当市の今の現状より「適正体重者」を増やす等の目標である。

- ・また、ご覧のとおり目標項目が多い。次回11月の委員会までには少し整理をさせていただいてもよいか。「第2次七尾市計画」の目標値には資料4の「朝食・夕食を家族と一緒に食べる共食の回数の増加」「朝食を欠食する割合」「学校給食における地場産物等を使用する割合の増加」を入れていきたいと考えている。
- ・以上のことから、「第2次七尾市食育推進計画」の最初に載せる計画策定（見直し）の趣旨・背景についても承認していただきたく説明する。

資料6 計画策定（見直し）の趣旨・背景

（抜粋）食は重要である。食育は、自然の恩恵や関係する人々への感謝の心を醸成し、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎。

しかし、食生活を取り巻く環境は大きく変化し、食の乱れ、栄養の偏りなどから生活習慣病有病者や予備群の増加という問題が生じている。

国は、国民運動として食育の推進に取り組んできたが、浸透しておらず、食を通じた健康の維持増進にまでは結びついていない方が多い。

このような現状を踏まえ、「(第1次)七尾市食育推進計画」の基本的な考え方を継承しつつ、「食育基本法」、国や県の「第2次計画」に基づき、市民一人ひとりが主体的に健康を守る食生活を営めるよう「第2次七尾市食育推進計画」を策定(見直し)する。

(5)「第2次七尾市食育推進計画」の推進期間について

- ・平成27年度から32年度の6年計画とさせていただきたい。理由は、当健康推進課では「健康増進計画」を立てているが、朝食や早寝 早起き等重複する部分が多い。そこで、6年後には、「七尾市健康増進計画(3次)」に食育推進計画を含めたいと考えている。

～各委員より第2次七尾市食育推進計画(案)に対する意見交換～

(伊藤委員)

- ・朝ごはんは、健康の第一歩で大切である。私は市民大学講座で講座を担当しているが、市民の方は昔のことを知りたがる。伝承料理の普及も続けることが良い。食べるということ、食育は人の輪を作るので生涯通じて大切だと思う。

(海老委員)

- ・子どもの食育を通して地場産物の消費拡大をしている。先日も金糸瓜を使い、子どもたちと焼きそばを作った。みんな「おいしい」と喜んでいて。健康まちづくり推進事業の子ども用レシピに能登野菜を使ってほしい。

(白井委員)

- ・自分の子どもには食育をしてやれなかった。七尾の課題として、資料にもあるように「女性の就業率が高い」ということで親は大変だと思う。人の味覚は12歳までに決まると言われている。昆布店をしているので、昆布出しのとり方を教えている。七尾の子どもは昆布だしの味がわかる。七尾は食材が豊かで食べ物がおいしい。新鮮な地場産物を使った家庭料理普及していけばよいと考えている。

(高瀬委員)

- ・計画を見たが目標を達成させていくことは大変だと思う。現代はものがありすぎてありがたさがわからない。JAとすれば女性部が食育をしている。食育の意識が薄いのではないかと感じている。身近に食育を取り入れられるような機会を増やしていけばJAは食材を扱っている団体なので協力していきたい。

(平野委員：七尾市公民館連絡協議会)

- ・健康まちづくり推進員をしている。「自分の健康は自分で守る」ことが第一である。自分は、以前、メタボであったが8年前より生活改善・食習慣の改善をして痩せた。地区活動では食生活改善推進員が健康な食べ方を伝えている。今後も食・運動・健康を実践し、多くの方が体験できるよう地域で普及していきたい。

(松本委員：七尾市食生活改善推進協議会)

- ・地域で食育を普及している。石崎地区では保育園を拠点に親子の食育やなまこなどの地場産物を普及している。生活リズムの大切さも随分普及されてきたのではないかと思う。今後も地区での食育や「早寝 早起き 朝ごはん」等の普及も大切である。今後も食育の推進に協力していきたい。

(北谷部長)

- ・皆さんからいただいた意見をもとにこの計画の方向性を確認し計画を策定していく。今後は、委員の皆様方には段階的にお示しし、意見をいただいていく。平成26年度改定の「第2次食育推進計画」と「健康増進計画」を6年後には一緒にしていけばよいという案がありこのような形で進めていきたい。生活習慣病の視点で、なぜこのようにしていかないと重症化予防や発症を防げないかということに注釈を加えながら第2次計画を策定していきたい。今日はこのような方向性ですすめてよろしいかということを確認いただき、今後さらに審議していただきたい。

(栃本副委員長：七尾市保育士会)

- ・保育園でも食育をしている。園庭での栽培から収穫活動、クッキングを通して食の大切さを園児や保護者に伝える。保育をしていて家庭での生活リズムの乱れを感じる。朝、登園しても元気がないなど園での生活にも影響を与えている。保育参観を通して保護者にも子どもの現状などを理解してもらっている。園の給食では地場産物ばかりでなく、多国籍料理もメニューに入っている。今日の給食はカレー、ナン、サラダ、スープであった。毎日の給食を通して食育している。

(澤委員長)

- ・先ほど、事務局の説明にあったが、目標に到達していないと言いつつも伸びてきているのは、第1次計画が行われてきたからではないかと思う。子どもたちへの生活習慣アンケート実施についても「七尾市食育推進計画」が浸透してきたからだと思う。第2次は、「自分の健康は自分で守る」というコンセプトであると言われたが、防災計画も自分の命は自分で守るということと同じで

「一人ひとり自ら自分の健康を守り主体的に考えて食生活を営めるようにする」ことが本当に大切なことであると思う。学校ではいろいろなことを主体的にできるような教育を行っている。資料にあるように胎児から高齢に至るまできめ細かい計画をたてていると感じる。小学校での食育も努力したいと感じた。広く市民に普及しを進めていけばよい。

・ほかに意見はないでしょうか。無いようでしたら第2次七尾市食育推進計画について承認いただける方は拍手をお願いしたい。

～委員全員の拍手をもって承認される～

3 年間日程について

(1)「第2次七尾市食育推進計画」策定に流れ(案)

資料9 年間日程

・次回の委員会は11月を予定している。今、承認をいただいたので第2次計画は生活習慣病予防を含んだ内容にさせていただく。11月に計画(案)を見ていただき、ご意見をいただきながら修正し、第3回の委員会では計画の審議・承認という形で進めて行きたい。

～年間日程について、委員全員の拍手で承認される～

4 その他

・特になし。

IV 閉会あいさつ(栃本副委員長)

・みなさんと一緒に意見を出し合いながら、「第2次計画」策定に協力して進めていきたい。

～15:00終了～